

もりのにぎわい通信

2025年11月22日 定例活動報告

日時：2025年11月22日（土）9:00～12:00

場所：小山町 観音地

天候：晴れ 気温 10～17°C 湿度 66% 風向 東南東 風速 2.5m/s

参加者：41人：子ども4人、大人37人（内土地改良区5人）

■活動

9:00 集合

9:30 作業開始

10:30 休憩

作業再開

12:00 片付け・解散

■活動報告

秋晴れに恵まれたこの日、森は少しづつ冬支度を始めているようでした。

歩くたびに足元から葉がカサコソと可愛らしい音を立て、頭上からは落ち葉のシャワーが降りそそぐ—そんな優しい空気に包まれながら活動が始まりました。

森の中には、湿った土の匂い、落ち葉の甘い香り、そして木々のあいだから流れてくる澄んだ空気が満ちていて、まるで森に歓迎されているようでした。

最初のプログラムは、スタッフによる紙芝居「かぶとむし かぶとむしの一生」の読み聞かせです。テーマは「カブトムシの生態」。落葉がどのように隠れ家や産卵場所として役立つか、そして森の生き物たちとのつながりについて、紹介しました。

子どもたちも大人も真剣に耳を傾け、「これから行う作業が森の暮らしを支えることにつながっている」ということを理解したうえで作業がスタートしました。

紙芝居を終え、スタッフ同士でも「今日の紙芝居、すごくよかったです」と話題になるほど、導入としても良い時間になりました。

また、この日は初めて参加してくださるご家族もいらっしゃいました。

「この森はどういう場所なのでしょうか？」

「活動はいつから続いているのですか？」

そんな質問をしてくださり、スタッフの説明を食い入るように聞かれていました。

森や活動の背景を知ろうとしてくださる姿はとても嬉しく、仲間が増えていく温かさを感じました。

この日の作業内容は多岐にわたりました。

- ・マツのクズの蔓切
- ・剪定した枝の回収
- ・キウイ棚の改修
- ・カブトムシの隠れ場所・産卵場所となる“カブトムシのゆりかご”落ち葉のプールづくり

・椎茸、柿、秋グミの収穫

・井戸水を汲み上げビオトープの池に流す

松のクズの蔓切とキウイ棚の改修作業は土地改良の皆さんにお願いしました。

松にはクズが繁茂しており成長を阻害する原因になっており、定期的な蔓切が必要です。

斜面での作業で大変でしたが無事終了しました。今後の松の成長が楽しみです。

キウイ棚の改修作業ですが今年春頃にキウイフルーツの枝を支えていた真竹の棚が経年劣化で壊れ、枝が地面についてしまいました。専門家に相談したところ無理に起こさず現状のままキウイの実を収穫した後に剪定をして棚を改修した方が良いとのことでした。

今回4mの真竹を11本と単管パイプ7本を用意し、棚の上に載せる真竹の固定はボランティア会員で単管パイプの組み立ては土地改良区の皆さんとで作業をして以前の2倍の広さの棚がほぼ出来上がり、最後に雄木の苗を植えました。今まで雄木なしでも受粉し実はつきましたが、どうしても実が小さくなるので雄木を植えることにしました。

落葉のプールづくりでは、紙芝居で作業の意味を知ったこともあり、子どもも大人もとても意欲的でした。一輪車いっぱいに落葉を運んだり、長く地面を這っていたクズのつるを手分けして切ったりと、身体をめいっぱい使って協力し合う姿がとても印象的でした。

大人チームもキビキビと動き、初めてとは思えないほど熱心に取り組んでくださいました。「何のために行う作業なのか」が見えていると、自然とやりがいを感じられるのだと実感します。

活動の合間には、子どもたちのかわいらしい発見もありました。

落葉の中から小さなカマキリの卵を見つけては誇らしげに見せてくれたり、森の中で蛙を何匹も見つけて観察したり……。生き物との出会いに目を輝かせる姿は本当に微笑ましく、自然の恵みをそのまま受け取っているようです。

森の恵みの収穫では、椎茸がいくつも顔を出しており、子どもたちが嬉しそうにひとつひとつ丁寧に収穫していました。柿やグミの実も色づき、秋ならではの森の恵みを楽しめる時間となりました。

収穫した椎茸、柿、グミは袋に分けお土産としました。

井戸のそばのビオトープの池では、水が減っていたため、みんなで協力して水を増やし、生き物たちが過ごしやすい環境へと整える作業も行いました。

帰り際には、仲良くなった子ども同士が「またね！」と言いながらハイタッチをして別れる姿も見られました。森でともに過ごす時間を通して生まれるつながりが、こんな形で広がっていくのはとても温かく嬉しい光景でした。

全体を通して、森の作業がどのように生態系を支え、自然を健やかに保つことにつながっているのかを実感できた一日でした。

ただ作業をするだけではなく、「森を守り、育てる」という視点をもって行動できたことが、とても意義深く感じられます。落葉が舞い、木々がささやき、土の香りが立ちのぼる静かな森の中で、参加者それぞれが自然と向き合いながら過ごした時間。森を未来へとつないでいく活動の大切さを、あらためて強く感じられる一日となりました。

※千葉市環境保全課募集の「谷津田の自然体験教室」を同時に実施しました。

記録：岩瀬 梨奈

・・・・・

お知らせホームページもご覧下さい→ <http://www.g-cycle.org/>

次回の定例会は、12月13日（土）（雨天の場合12月14日（日））9:00～12:00

除草作業、クズの蔓切、枝の剪定作業などを行う予定です。興味のある方は奮って参加下さい。



集合写真



受付



作業前説明



紙芝居の始まり



大部分を落ち葉の中で過ごすカブトムシの幼虫



成虫となったカブトムシは木の樹液を飲む





紙芝居を見る聞く参加者



松のクズの蔓切作業



真竹を固定するキウイ棚の改修作業



単管パイプを打ち込み区画を広げる作業



棚の完成

雄木苗を植える



剪定した枝の回収・焼却場へ



落ち葉を集めて堆肥場に入れる



お茶の用意



休憩の様子



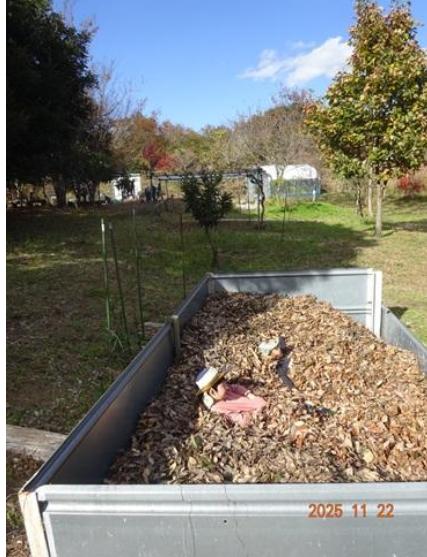
落ち葉を集めてカブトムシのゆりかごに



落ち葉がたくさん集まりました。



落ち葉のプールに入って泳ぐ？



気持ちよさそう



手押しポンプで汲み上げた水をビオトープ池へ流す





次郎柿の収穫作業



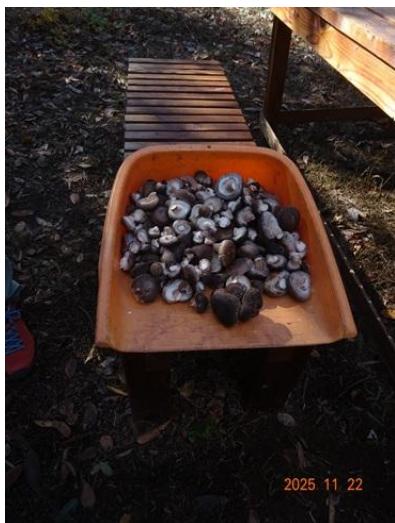
ブルーベリーの紅葉



禅寺丸柿



2014年5月に植えた秋グミに実がつきました。



椎茸が採れました



紅葉がきれい